



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第108号
平成29年4・5月号

『置かれた場所で咲きなさい』

杭州は早くも桜の花の見ごろから緑滴る季節へと移り変わろうとしています。元気な杭州っ子たちが思い切り体を動かせる、すばらしい季節がやってきました。

平成20年（2008年）4月18日に開校した本校も、いよいよ10年目（創立9周年）のスタートを迎えました。

保護者の皆様には、日頃より本校の教育振興に対して深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。私たち教職員は、大切なお子さまの安全・安心を守る学校づくりと、健やかな体と心の育成をめざして日々の教育に取り組んでまいります。



この学校便り「ひとつぶの種」も第108号となりました。「ひとつぶの種」は初代多紀校長が校歌から命名されました。本校の特色である少人数の良さを生かし、子ども一人一人の個性や持ち味を大切にしながら、秘められた才能を引き出し、将来、力強く開花できるようにそれぞれ違う「ひとつぶの種」を大切に育てていきます。

植物の種は自分の意志で動くことはありません。しかし、どんな場所に置かれようとも、その環境に決して不満を抱くことなく、力の限り芽吹き、葉を茂らせ、花を咲かせようと努力します。私たち教職員も、世界中のいろいろな環境で精一杯の生き方ができる人間育成をめざし、保護者の皆様と力を合わせて「ひとつぶの種」を見守り、育ててまいりたいと思います。

- 平成29年度「学校経営基本方針」についてお知らせします。

＜校訓＞『切磋琢磨（せつさたくま）』

＜教育目標＞『志高く夢を抱き、自らの力で生き方を切り拓く児童生徒の育成』

＜めざす子ども像＞ ① 主体的に学ぶ子（知） ② 明るく素直で礼儀正しい子（徳）
③ 進んで体を鍛える子（体）④ 自他の命と心を大切にする子（心）

＜3つの約束＞ ① 元気なあいさつ（社会性） ② はいと返事する（対応力）
③ はきものをそろえる（自律性）

- 今年度赴任した先生を紹介します。

校長 大西 一人（神戸市） 教諭 伊東 裕子（北海道）

教諭 雨宮圭一郎（山梨県） 教諭 菊地 聡美（千葉県）

教諭 大野 歩（愛知県）

新たに5名の先生が、杭州日本人学校の家族の一員に加わりました。保護者の皆様のご支援をいただきながら、前進してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

